

令和3年度 富谷市社会教育関連施設個別施設計画策定業務

富谷市社会教育施設長寿命化計画
【本編概要版】

令和4年6月

富谷市教育委員会
(生涯学習課)

株式会社 構 建築設計事務所

目 次

第1章 社会教育施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
【1. 背景】	1
【2. 計画期間】	2
【3. 対象施設】	2
第2章 社会教育施設の目指すべき姿	3
【1. 学び続けることのできる環境の整備】	3
【2. 地域活動拠点としての役割の充実】	3
【3. 防災拠点としての役割の充実】	3
【4. 学び合う 高め合う 尊び合う 富谷の教育～人生100年時代の教育環境を目指して～】	3
第3章 社会教育施設を取り巻く現況	4
【1. 人口動向】	4
【2. 財政状況】	5
第4章 社会教育施設の実態	6
【1. 施設利用状況】	6
【2. 社会教育施設の建築年度別保有量】	7
【3. 社会教育施設の老朽化状況の実態】	8
1：コンクリートの圧縮強度試験	8
2：コンクリート中性化深さ試験	9
3：構造躯体の健全性に関する長寿命化判定結果	9
4：躯体以外の劣化状況判定	10
第5章 社会教育関連施設整備の基本的な方針	11
【1. 社会教育施設整備及び長寿命化等の基本的な方針】	11
【2. 改修、修繕及び長寿命化等の基本的な方針】	12
第6章 長寿命化の実施計画	13
【1. 改修等の優先順位の基本的な考え方と実施計画】	13
【2. 長寿命化によるコスト試算の比較と検証】	16



第1章 社会教育施設の長寿命化計画の背景・目的等

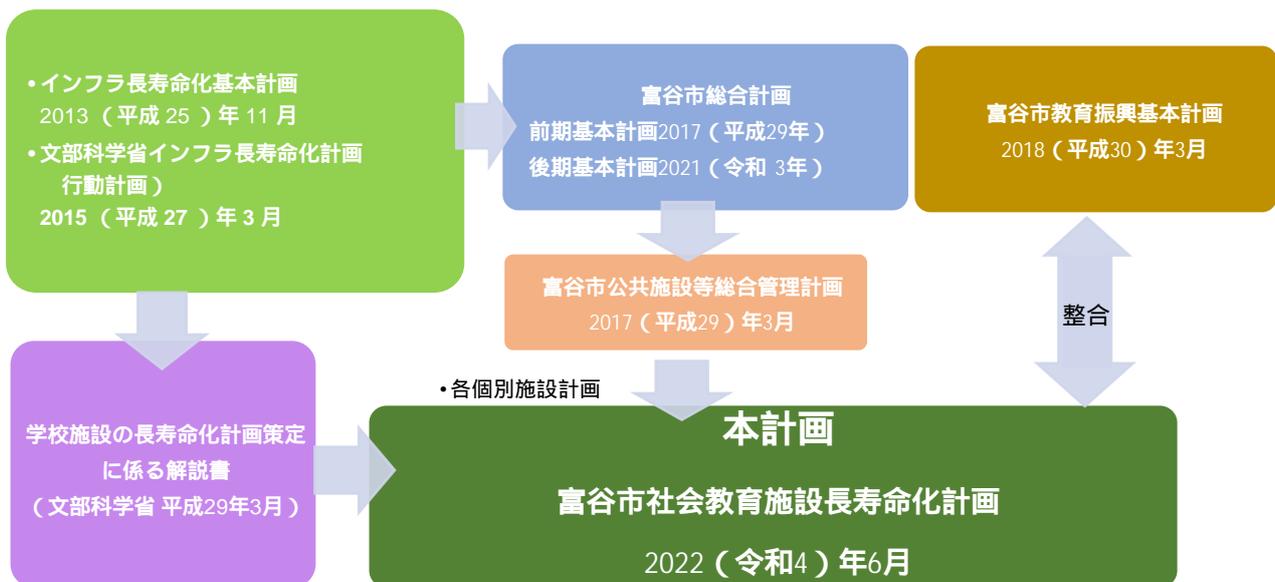
【1. 背景】

社会教育施設の公共インフラは、老朽化に伴う多額の更新費用が必要になることが予想されるため、適切な維持管理が求められています。

このようななか、国は「インフラ長寿命化基本計画」を2013（平成25年）に策定し、これに基づき、学校施設を対象とした「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」が策定されました。

本市においては、2017（平成29）年に「富谷市公共施設等総合管理計画」を策定しています。「富谷市社会教育施設長寿命化計画」（以下、「本計画」という。）は、上位計画である公共施設等総合管理計画に基づく社会教育施設の改修や更新等に関する行動計画（個別施設計画）となります。

本市のこれまでの取組みを踏まえつつ、市が保有・管理する公共施設の調査・分析と、中長期的なメンテナンスサイクルの構築、トータルコストの縮減と予算の平準化、施設の再配置や統廃合、複合化及びさらなる有効活用、広域的な既存施設の相互利用、民間活力の活用、管理経費の削減など、住民の福祉を増進する目的をもって、公共施設の維持管理・更新等の最適化を図るための基本方針として策定した「富谷市公共施設等総合管理計画」に基づき、本市の保有する社会教育施設について、長寿命化の観点から中長期的な財政負担の低減及び平準化を図り、社会情勢の変化やニーズの多様化に配慮した、施設の維持管理・更新等を着実に推進することを目指します。



【 2 . 計画期間】

本計画の計画期間は、2022（令和4）年度から2032（令和14）年度までの10年間とし、計画の進捗状況や社会情勢の変動を確認しながら見直しを行います。

【 3 . 対象施設】

本計画の対象施設は、本市で所有する公共施設のうち、社会教育施設の11施設20棟とし、なおこれらの総延床面積は21,320㎡です。対象施設の一覧を以下に示します。

施設番号・施設名		棟名称	構造	階数	延床面積 (㎡)	建設年度		築年数
1	富谷スポーツセンター	(本館)	SRC	2	4,168	1986	S61	36
		機械室	RC	2	128	1986	S61	36
		ABグラウンドトイレ棟	CB	1	21	1986	S61	36
4		ABグラウンドトイレ棟	W	1	39	2001	H13	21
1	富谷武道館	(本館)	RC	3	3,759	1998	H10	24
		オイルポンプ室	RC	1	7	1998	H10	24
1	スポーツ交流館	(本館)	W	1	492	2015	H27	7
1	西成田コミュニティセンター	(本館)	W	1	734	1974	S49	48
		プール附属棟	W	1	29	1982	S57	40
1	大黒澤苑	研修棟	W	1	262	1987	S62	35
2		趣味の棟	W	2	137	1999	H11	23
		トイレ棟	W	1	15	2000	H12	22
1	あけの平公民館	(本館)	RC	2	1,732	1991	H3	31
1	成田公民館	(本館)	RC	2	2,453	2002	H14	20
		屋外トイレ	RC	1	13	2002	H14	20
		油庫	RC	1	4	2002	H14	20
1	東向陽台公民館	(本館)	RC	2	1,718	1985	S60	37
1	日吉台公民館	(本館)	RC	2	1,663	1997	H9	25
1	富ヶ丘公民館	(本館)	RC	2	1,918	1982	S57	40
1	富谷中央公民館	(本館)	SRC	2	1,714	1987	S62	35

出典：教育委員会資料

注) ・建築年度は、施設の建築物の中で延床面積の最も広い建物について記載しています。

・延床面積は対象施設の総面積を記載しています。

・構造の表記

□ : 築年数が30年以上を示しています。

SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造 RC：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造 W：木造 CB：コンクリートブロック造

・築年数は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」に則り、2022年を基準に各施設の建築年度から算出しています。



第2章 社会教育施設の目指すべき姿

【1．学び続けることのできる環境の整備】

市民文化系施設

生涯学習活動拠点の整備

生涯学習の拠点施設である公民館施設の保全・補修を計画的に進め、安全で快適な学習環境の提供に努めるとともに、市民の誰もが利用しやすい施設の環境整備に努めます。

利用しやすく活用しやすい公民館整備を図り、地域間・世代間のさらなる交流を図ります。

スポーツ・レクリエーション系施設

生涯スポーツを支える体制の整備・充実

総合運動公園施設の充実強化を図り、老朽化した施設の計画的な整備を図るとともに、新たなスポーツニーズに対応した施設の整備促進を図ります。

【2．地域活動拠点としての役割の充実】

市民文化系施設

市民活動の活性化等、地域に根ざすコミュニティ拠点として、計画的な管理を行います。

民間に管理運営を任せられる施設については、民間活力の導入・民間への移管を行います。

スポーツ・レクリエーション系施設

各種スポーツを楽しめる総合施設として、計画的な管理を行います。

【3．防災拠点としての役割の充実】

防災マップにも記載があるように、社会教育施設は災害時の避難所としても指定されているため、災害時の活動を支援する施設としての充実も図ります。

【4．学び合う 高め合う 尊び合う 富谷の教育 ～人生100年時代の教育環境を目指して～】

市民文化系施設

循環型生涯学習社会の推進のため、公民館活動の充実を図り公民館活動の充実します。

スポーツ・レクリエーション系施設

生涯スポーツの推進のため、生涯スポーツを楽しむ機会の充実・指導体制の充実、競技スポーツの普及・生涯スポーツを支えるため、体制・環境の充実運動拠点施設の充実を図ります。



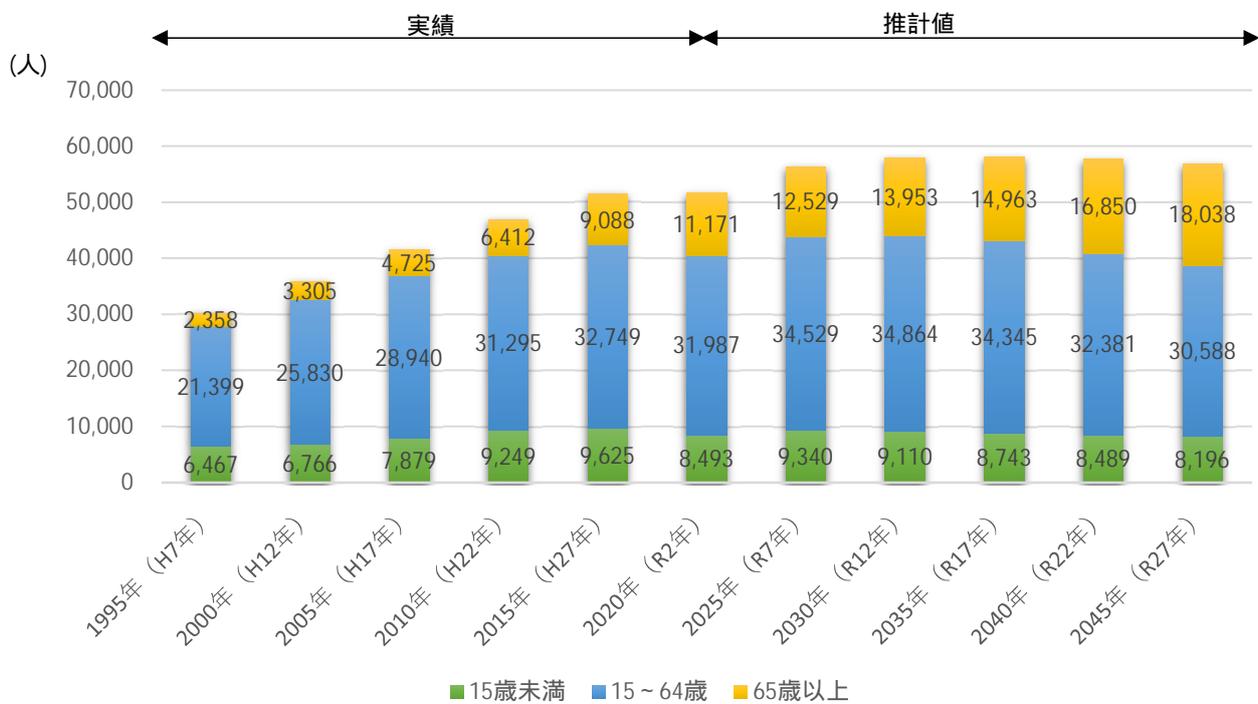
第3章 社会教育施設を取り巻く現況

【1. 人口動向】

本市の年齢3区分別人口は、年少人口（0歳から15歳未満の人口）、生産年齢人口（15歳以上から65歳未満の人口）、老年人口（65歳以上の人口）とも2015（平成27）年まで継続して増加してきました。

2015（平成27）年以降、老年人口の増加は今後も継続する見込みですが、年少人口は減少傾向に転じると見込まれています。

2020（令和2）年の国勢調査では、生産年齢人口が前回よりも減少しました。



（平成7年～令和2年）

出典：国勢調査

（令和7年以降）

出典：国立社会保障・人口問題研究所による推計

「日本の地域別将来推計人口」

（平成30（2018）年推計）

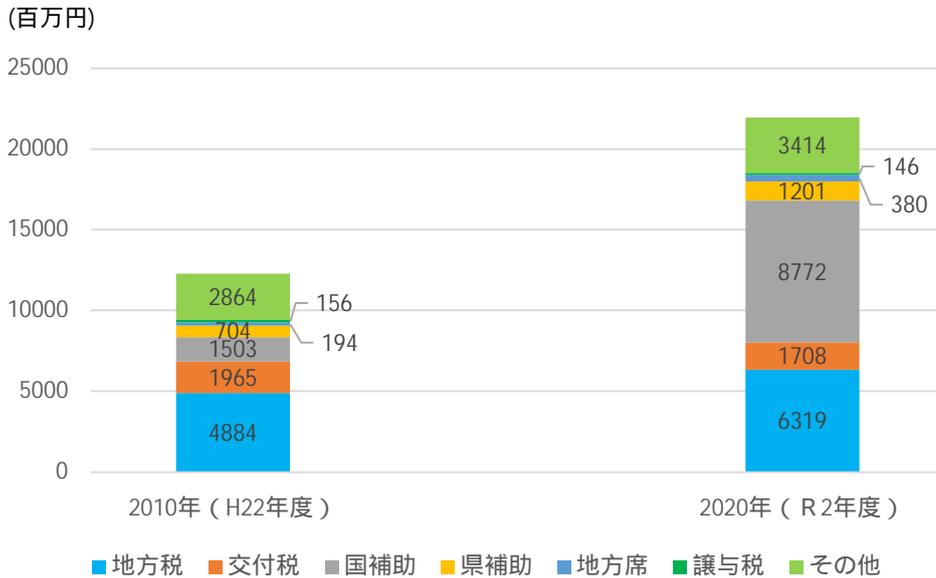
注）・年齢不詳を除いているため、総人口の値と一致しない場合があります。

・小数点以下を四捨五入しているため、各値の合計値が全体の合計値と合わない場合があります。

【 2 . 財政状況】

【1.歳入の状況】

本市における2020（令和2）年度の歳入は21,940百万円であり、2010（平成22）年度の歳入の12,270百万円に比べ増加（79%）となっています。



(平成22年度)

(令和2年度)

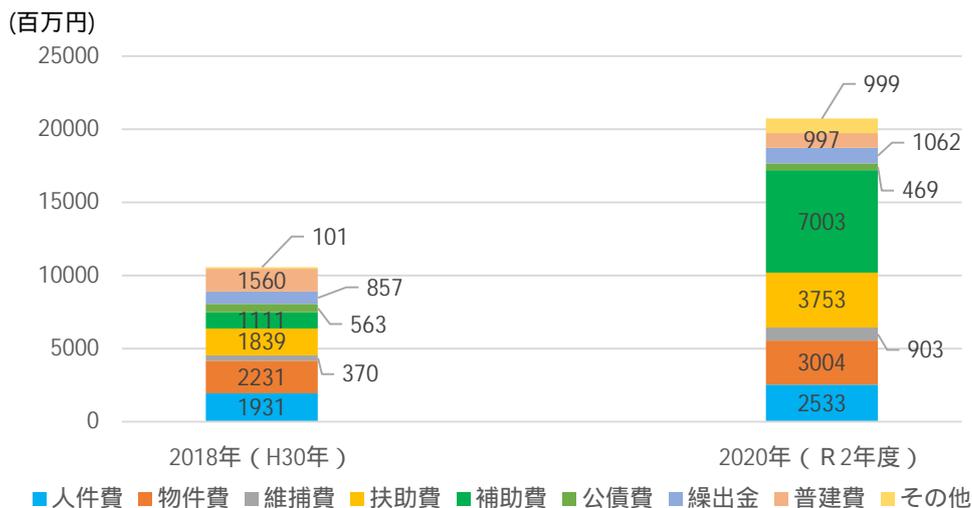
出典：総務省HP「地方財政状況調査関係資料」

出典：富谷市財政課資料

注)・小数点以下を四捨五入しているため、各値の合計値が全体の合計値と合わない場合があります。

【2.歳出の状況】

本市における2020（令和2）年度の歳出は20,723百万円であり、2010（平成22）年度の歳出の10,563百万円に比べ増加（96%）となっています。



(平成22年度)

(令和2年度)

出典：総務省HP「地方財政状況調査関係資料」

出典：富谷市財政課資料

注)・小数点以下を四捨五入しているため、各値の合計値が全体の合計値と合わない場合があります。



第4章 社会教育施設の実態

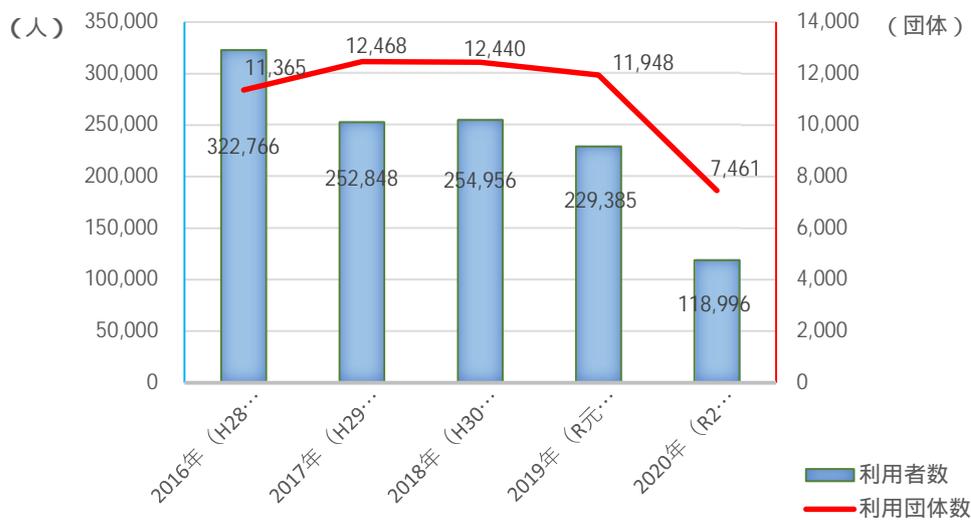
【1. 施設利用状況】

市民文化系施設

少子高齢化の進展や価値観の多様化等により、生涯学習に対するニーズは、年齢や性別を問わず多様なものとなってきています。

【公民館利用者人数の推移】

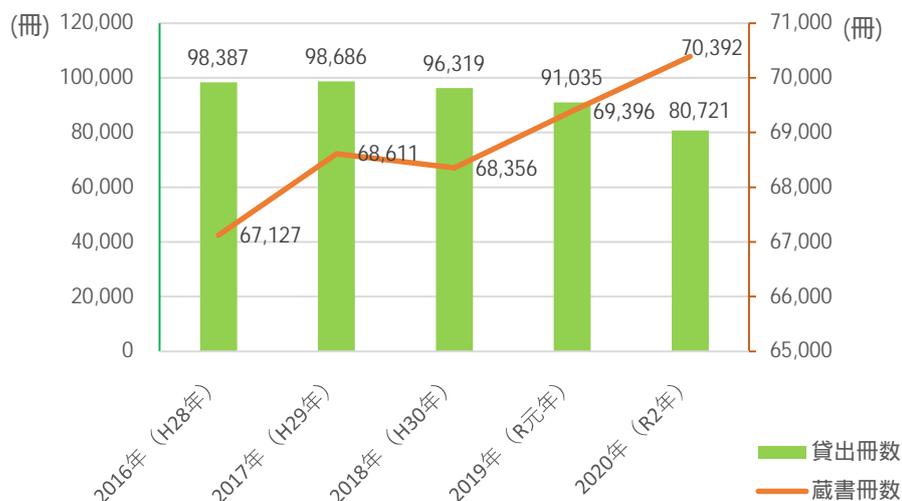
各種講座の開設やサークル活動など、市民の様々な活動の拠点として活用されています。近年はコロナ禍の影響で利用者は減少している状況です。



出典：教育委員会資料

【公民館図書の貸出し冊数の推移】

図書の貸し出しをおこない、蔵書数も増やし市民に活用されてきましたが、近年はコロナ禍の影響で利用者は減少している状況です。

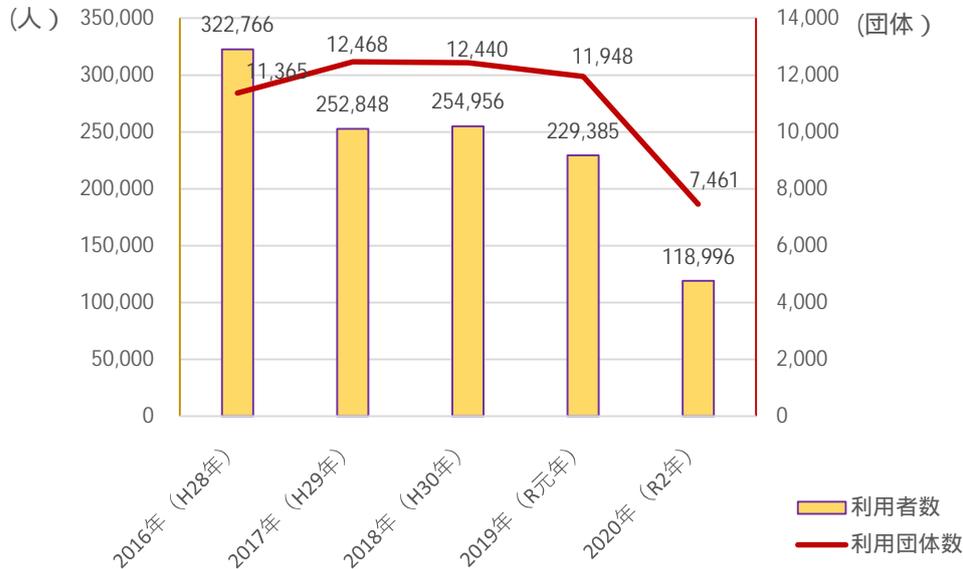


出典：教育委員会資料

スポーツ・レクリエーション系施設

【スポーツ・レクリエーション系施設利用者人数の推移】

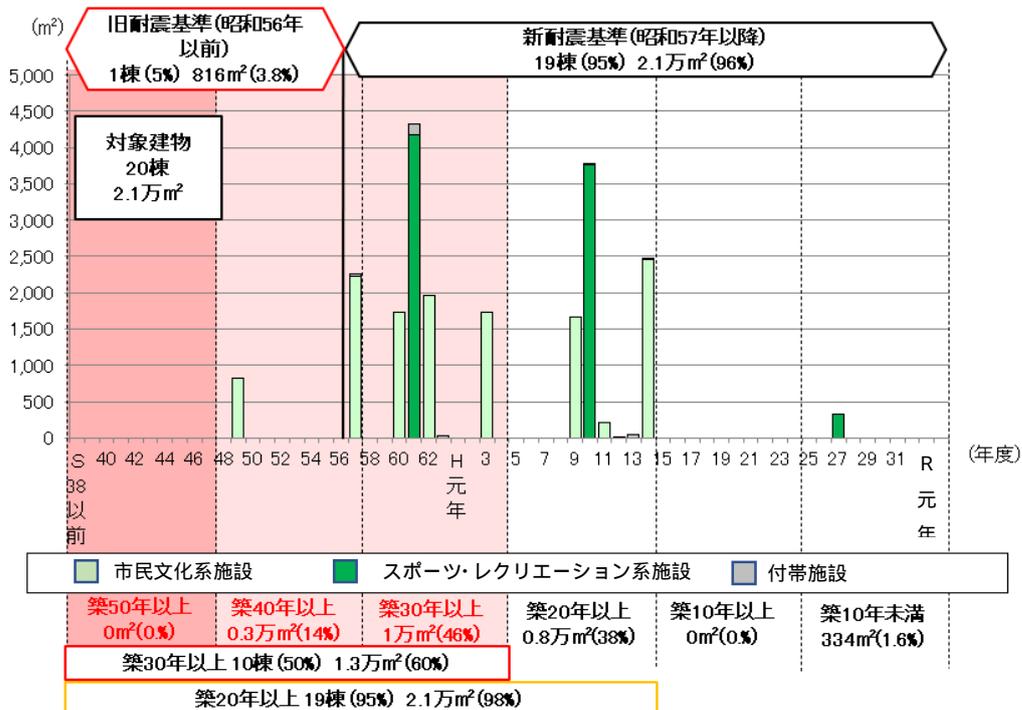
市民のスポーツへの関心も高まっており、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、各種スポーツ大会やスポーツ教室等を開催し、生涯スポーツの振興を目指すとともに、スポーツ活動を促進するために活用されています。近年はコロナ禍の影響で利用者は減少している状況です。



出典：教育委員会資料

【2. 社会教育施設の建築年度別保有量】

社会教育施設の建築年度別保有量（建築年度別延床面積）は、築30年以上の建築物が10棟で約60%、築20年以上の建築物が19棟で約98%となっています。

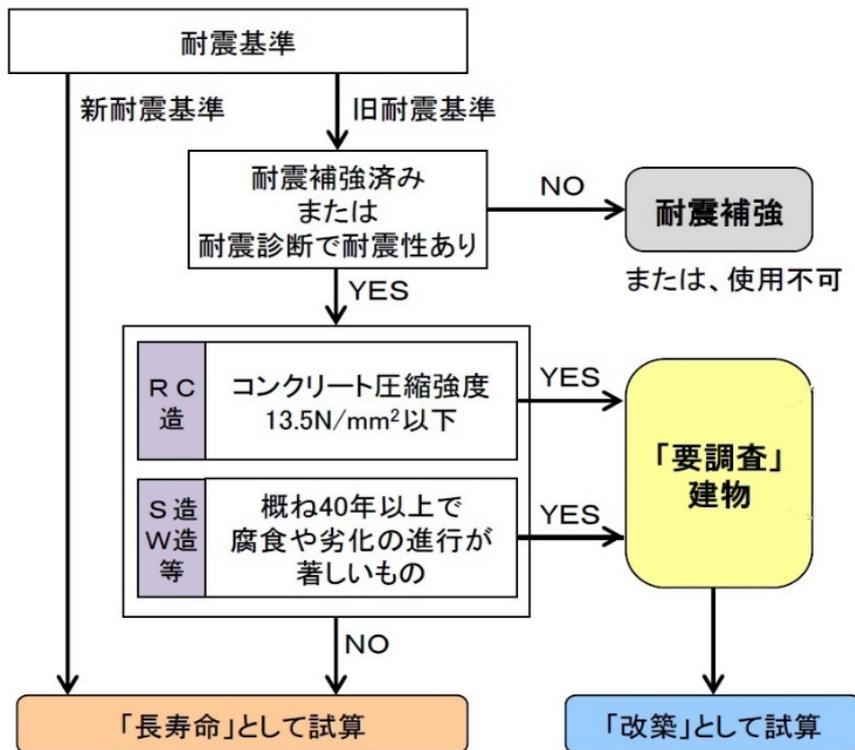


出典：学校施設の長寿化計画策定に係る解説書（平成29年 文部科学省）

【3. 社会教育施設の老朽化状況の実態】

構造躯体の長寿命化判定は、社会教育施設11施設の内、8施設を調査対象とします。
「耐震基準」「コンクリート圧縮強度試験」「中性化深さ試験」により行います。
また、試験結果について次ページ以降に示します。

1：コンクリートの圧縮強度試験



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年文部科学省）

2：コンクリート中性化深さ試験

コンクリート中性化深さ試験結果

コンクリート中性化深さ試験については、対象となる社会教育施設でそれぞれ3箇所試験を実施し、3箇所の中性化試験の平均値を示しました。

建築物の耐震診断システムマニュアルの中性化理論式（浜田式）によると、中性化試験の結果、対象施設8施設における中性化深さは、鉄筋腐食開始の判断基準である中性化残り10mm（中性化深さ20mm）のA判定となった7施設は現状維持、B判定となった1施設で予防措置が必要という結果になりました。

予防措置には、外壁表面の塗装を除去したあとに「表面被覆工法」または「表面含浸工法」による表面保護と、ひび割れ等の劣化補修として「ひび割れ注入工法」がありますので建物状況に応じた適切な工法を選定する必要があります。

3：構造躯体の健全性に関する長寿命化判定結果

施設番号	建物名	建築年度	耐震基準	構造躯体の健全性		
				圧縮強度試験結果 (N/mm ²)	中性化深さ試験結果による判断	判定
-1	富谷スポーツセンター	1986 S61	新耐震	36.4	A	長寿命化可能
-1	富谷武道館	1998 H10	新耐震	23.2	A	長寿命化可能
-1	あけの平公民館	1991 H3	新耐震	36.4	A	長寿命化可能
-1	成田公民館	2002 H14	新耐震	36.7	A	長寿命化可能
-1	東向陽台公民館	1985 S60	新耐震	53.2	A	長寿命化可能
-1	日吉台公民館	1997 H9	新耐震	32.6	A	長寿命化可能
-1	富ヶ丘公民館	1982 S57	新耐震	24.9	A	長寿命化可能
-1	富谷中央公民館	1987 S62	新耐震	24.1	B	長寿命化可能 (但し、予防措置が必要)

出典：コンクリート中性化及び圧縮強度試験報告書

上記試験結果を踏まえて長寿命化の判定をしたところ、全ての施設について長寿命化可能と判定しました。

4：躯体以外の劣化状況判定

調査項目（5項目）を4段階で評価します。「評価D」は速やかに修繕又は改修等による対応が必要、「評価C」は概ね20年以内に対応が必要と考えられます。さらに5部位（「屋上・屋根」「外壁」「内装」「電気設備」「機械設備」）ごとに集計し平均した値をもって、各部位を4段階（A～D）で評価を行いました。

優先順位 グループ	施設番号・施設名		築年数	健全度 (100点 満点)	劣化度 (100点 - 健全度)	劣化状況評価				
						屋根・ 屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
①	1	富谷スポーツセンター 本館	35	45	55	C	C	C	B	C
①	2	機械室	35	65	35	B	C	B	B	B
①	3	ABグラウンド トイレ棟	35	65	35	B	C	B	B	B
④	4	CDグラウンド トイレ棟	20	75	25	B	B	B	B	B
①	1	富谷武道館 本館	23	58	42	B	B	C	B	C
④	2	オイルポンプ室	23	75	25	B	B	B	B	B
④	1	スポーツ交流館 本館	6	93	7	A	B	A	A	A
①	1	西成田コミュニ ティセンター 本館	47	62	38	C	C	B	B	B
①	2	プール附属棟	39	37	63	C	C	C	C	C
②	1	大黒澤苑 研修棟	24	62	38	B	B	C	B	B
④	2	趣味の棟	22	75	25	B	B	B	B	B
④	3	トイレ棟	21	75	25	B	B	B	B	B
①	1	あけの平公民館 本館	30	40	60	C	C	C	C	C
②	1	成田公民館 本館	19	49	51	C	C	C	B	B
④	2	屋外トイレ	19	76	24	A	B	B	A	C
④	3	油庫	19	90	10	A	B	A	A	B
①	1	東向陽台公民館 本館	36	40	60	C	C	C	C	C
②	1	日吉台公民館 本館	24	45	55	C	C	C	B	C
①	1	富ヶ丘公民館 本館	39	40	60	C	C	C	C	C
①	1	富谷中央公民館 本館	34	40	60	C	C	C	C	C

凡例

：長寿命化改修

：大規模改造

：部位修繕

A：概ね良好

B：部分的に劣化

C：広範囲に劣化

D：早急に対応する必要がある



第5章 社会教育施設整備の基本的な方針

【1. 社会教育施設整備及び長寿命化等の基本的な方針】

改築中心から長寿命化改修への転換

富谷市社会教育施設長寿命化計画においては、現在の改築中心から長寿命化改修への転換（事後保全型から予防保全型）により、中長期的に維持管理等に係るトータルコストの縮減を図ることを全体目標とするとともに、以下の基本方針により、将来にわたって安全・安心に利用することのできる社会教育施設を実現します。

基本方針1：維持管理・修繕・更新等の基本方針

1-1 維持管理・修繕の基本方針

日常の保守によって劣化及び機能低下を防ぎ、住民にとって安全に使用される必要があります。公共施設等を供用し続けるには、設備機器の運転や清掃等が必要です。修繕や小規模改修に対しては、速やかな対応ができる体制を構築します。

1-2 更新等の基本方針

人口の動向や住民ニーズ、周辺施設の立地状況等を踏まえた適正な規模を想定したうえで機能の複合化を検討し、効率的な施設の配置を目指すとともに、省エネ対応機器の導入等、トータルコストの縮減に努めます。

実施方針2：安全確保の基本方針

2-1 予防保全の推進

利用者の安全を担保し、万一の災害等に遭遇したときに被害を最小限にとどめ、円滑に復旧する体制を整えることです。日常点検や定期点検により、施設の劣化状況の把握に努めます。さらに、災害時に避難所等となる防災機能を有する施設もあることから、点検の結果により危険性が認められた施設については、施設の利用状況や優先度を踏まえながら、計画的な維持補修や更新に努めます。

実施方針3：長寿命化の実施方針

3-1 維持管理費用の適正化

定期的な点検・診断に基づく総合的かつ計画的な予防保全型の管理によって、施設の長寿命化を図っていきます。そのため点検・保守・修繕を計画的に行い、公共施設等を健全な状態に保ち、一定水準以上の良好な状態を保つことを目指します。

3-2 長期的費用の縮減と平準化

施設の長寿命化を実施することによりライフサイクルコストの縮減を見込むことができる施設については、定期点検や予防保全の結果を踏まえて計画的な改修を実施することにより、劣化の進行を遅らせ、施設の機能低下を長期間にわたって抑えていくことで、維持管

3-3 維持管理コストの縮減

これから大規模改修の時期を迎える施設は、長寿命化を併せて実施することで長期的な維持管理コストの縮減を目指します。

【 2 . 改修、修繕及び長寿命化等の基本的な方針】

(1) 長寿命化の方針

定期的な点検・診断等の結果を活用し施設の改修、修繕等を計画的に実施することで予防保全を行い、トータルコストの縮減と歳出の平準化を推進します。また、長寿命化に必要となる事項（施設の目標使用年数と改修の周期、改修の整備水準、実施計画）を定めます。

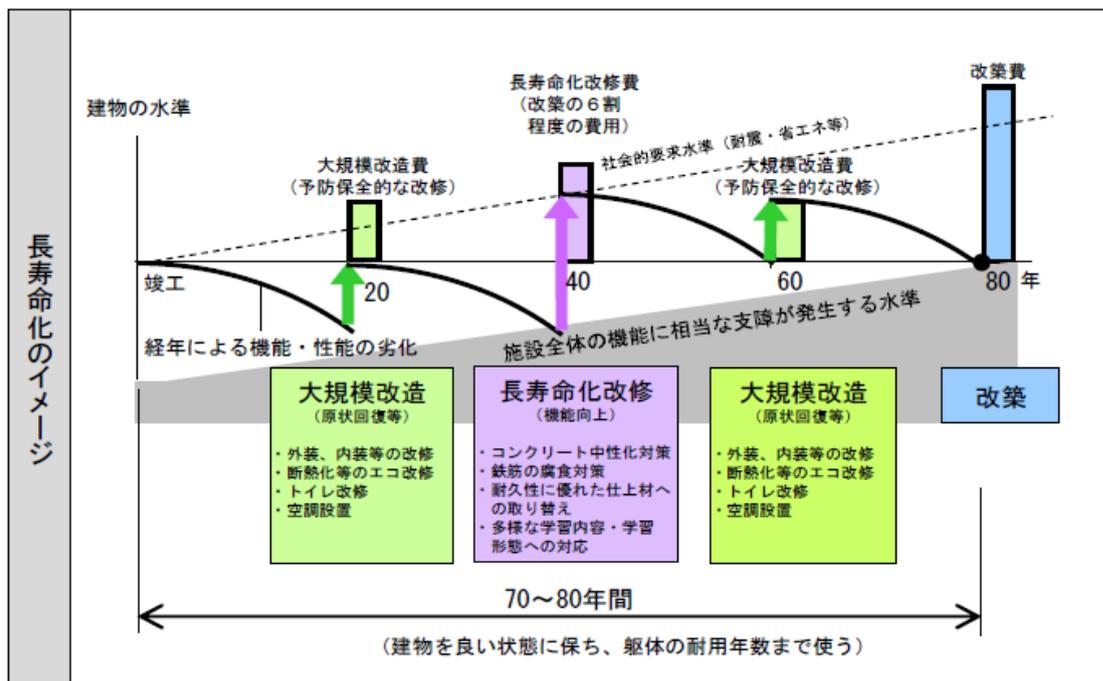
(2) 目標使用年数、改修周期の設定

目標使用年数

社会教育施設の長寿命化による目標使用年数は、木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造いずれも80年とします。

改修周期の設定

長寿命化型の改修周期は、建築してから約20年経過した時期に機能回復のための大規模改造を実施し、耐用年数の中間となる約40年経過した時期に機能向上のための長寿命化改修を実施し、さらにその後、約20年（建築してから約60年）経過した時期に再び大規模改造を行うこととしています。このように改修周期を踏まえて計画的に予防保全を実施することにより、経年による機能・性能の劣化を回復させるとともに、建物の耐久性、快適性、省エネ性を確保します。



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成27年4月 文部科学省）



第6章 長寿命化の実施計画

【1. 改修等の優先順位の基本的な考え方と実施計画】

今後の改修、改築、修繕の実施にあたっては、児童・生徒・園児の安全確保を第一に考え、劣化状況調査においてD判定となったもの、もしくは災害等の被害により早急な対応が必要となったものなど「緊急的な対応を要するもの」について最優先に対応することとします。次いで、劣化状況調査においてC判定となっている「なるべく早期に対応が必要とされるもの」について対応することとします。

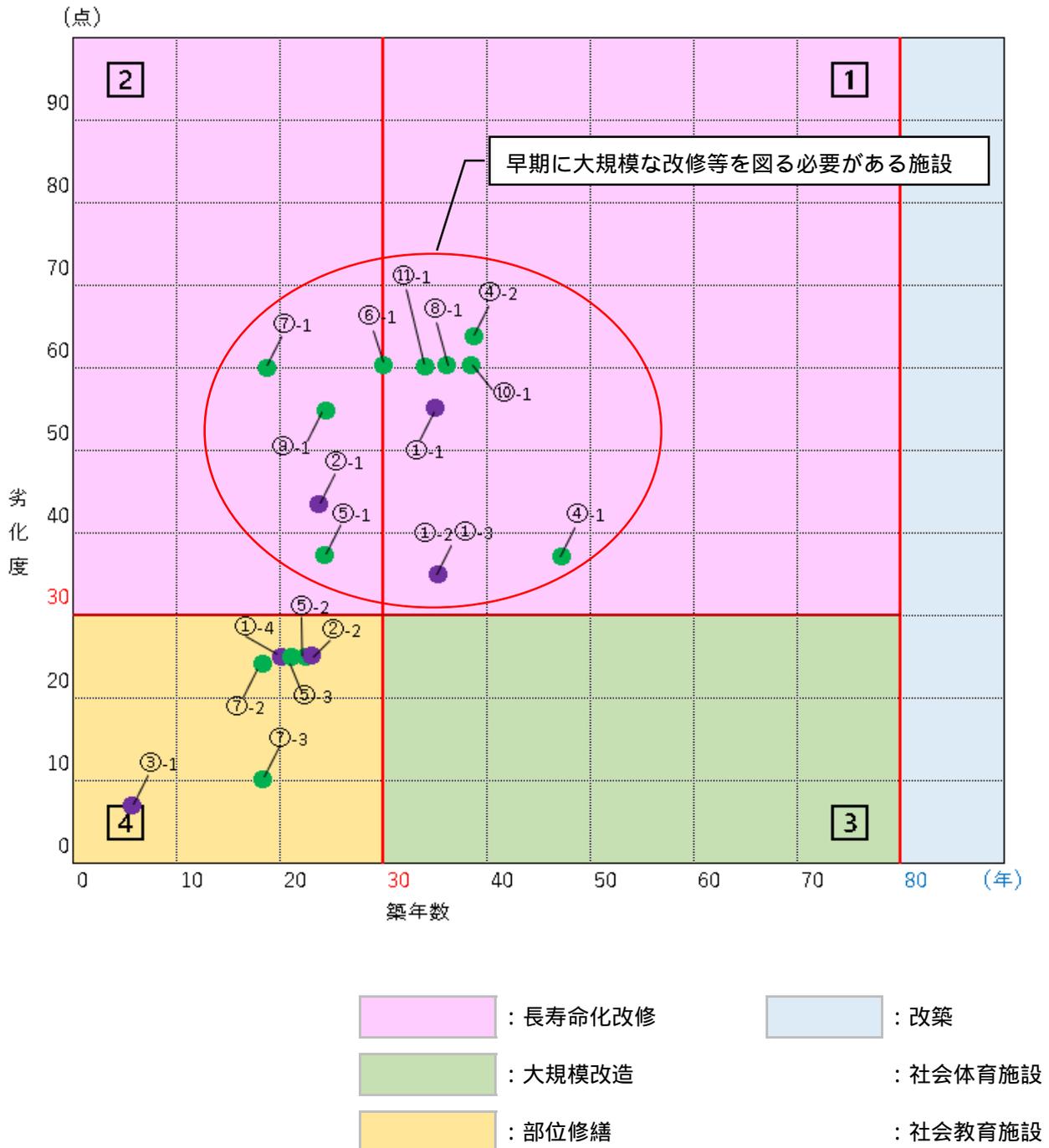
上記以外の改修、改築、修繕については、社会教育施設の長期的に活用していくため、劣化状況調査に基づく健全度、過去の改修履歴を判断材料として、築年数の古い施設から順次、長寿命化のための改修、改築を進めていくこととします。

劣化状況評価による判断			築年数による判断	劣化度(点) (100-健全度)	優先順位グループ
優先順位	項目	検討・判断内容			
1	安全を確保するため緊急的な対応を要するもの	劣化状況調査の結果、D判定となった施設について実施。または、災害等により被害を受けた施設について実施	30年以上	30点以上	1
			30年未満	30点以上	2
2	安全を確保するためなるべく早期に対応が必要とされるもの	劣化状況調査の結果、C判定となった施設について実施	30年以上	30点未満	3
			30年未満	30点未満	4
3	施設を長期的に活用していくために計画的に進めるもの	劣化状況評価に基づく健全度や過去の改修履歴を考慮しながら、築年数の古い施設から順に実施			4

優先順位に向けた考察

今回対象の社会教育施設を「社会教育施設の改修等の優先順位の考え方」で「劣化度」と「築年数」で優先順位グループを区分した場合、下記のような散布図にすることで優先順位が視覚的に表現できます。

赤丸囲い部分は、早期に大規模な改修等を図る必要があると考えられます。その他については、「築年数」や劣化状況評価（C）評価の進行状況に着目して、適切な時期に修繕行っていくものとします。



社会教育施設の第1期実施計画

社会教育施設の実施計画として、今後10年間（2022（令和4）年～2031（令和13）年）は、下記に示します。長寿命化改修の優先度は、表8．劣化度と築年数の散布図の劣化度と築年数の高いものから計画しています。但し、-2が最も高いがプール付属棟ということで本館と同時の施工が有効と考えました。

施設番号・施設名		第1期実施計画										備考	
		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	その他予定している 工事	
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13		
1	富谷スポーツセンター	本館			LED化	床張替							アリーナ空調設備工事・外壁塗替工事
		機械室											
		ABグラウンド トイレ棟		屋根塗替									
		CDグラウンド トイレ棟											
1	富谷武道館	本館			LED化							床張替	トイレ洋式化工事・監視カメラシステム更新工事
		オイルポンプ室		屋根塗替									
1	スポーツ交流館	本館											テニスコート照明LED化工事・テニスコート周辺舗装修繕工事・駐車場区画線敷設工事
1	西成田コミュニティセンター	本館						屋根・外壁塗替					
		プール付属棟		屋根塗替									屋外プール防水工事
1	大黒澤苑	研修棟						屋根・外壁塗替					外周フェンス更新工事・駐車場区画線敷設工事
		趣味の家						屋根・外壁塗替					
		トイレ棟							屋根・外壁塗替				
1	あけの平公民館	本館					床張替				長寿命化改修	駐車場舗装改修工事・外周フェンス更新工事・外照明ポール更新工事	
1	成田公民館	本館				LED化							駐車場区画線敷設工事・ホール可動椅子修繕工事・床暖房工事・屋上緑化工事
		屋外トイレ											
		油庫											
1	東向陽台公民館	本館						床張替・LED化	長寿命化改修				
1	日吉台公民館	本館				床張替・LED化					屋根塗替	エアコン室外機更新工事	
1	富ヶ丘公民館	本館			LED化				長寿命化改修				駐車場区画線敷設工事・エアコン室外機更新工事
1	富谷中央公民館	本館				床張替・LED化					長寿命化改修	駐車場区画線敷設工事	

(凡例) 改築及び改修等の事業に応じ、標準的な事業期間を設定しています。
各事業スケジュール等は状況により変更する場合があります。

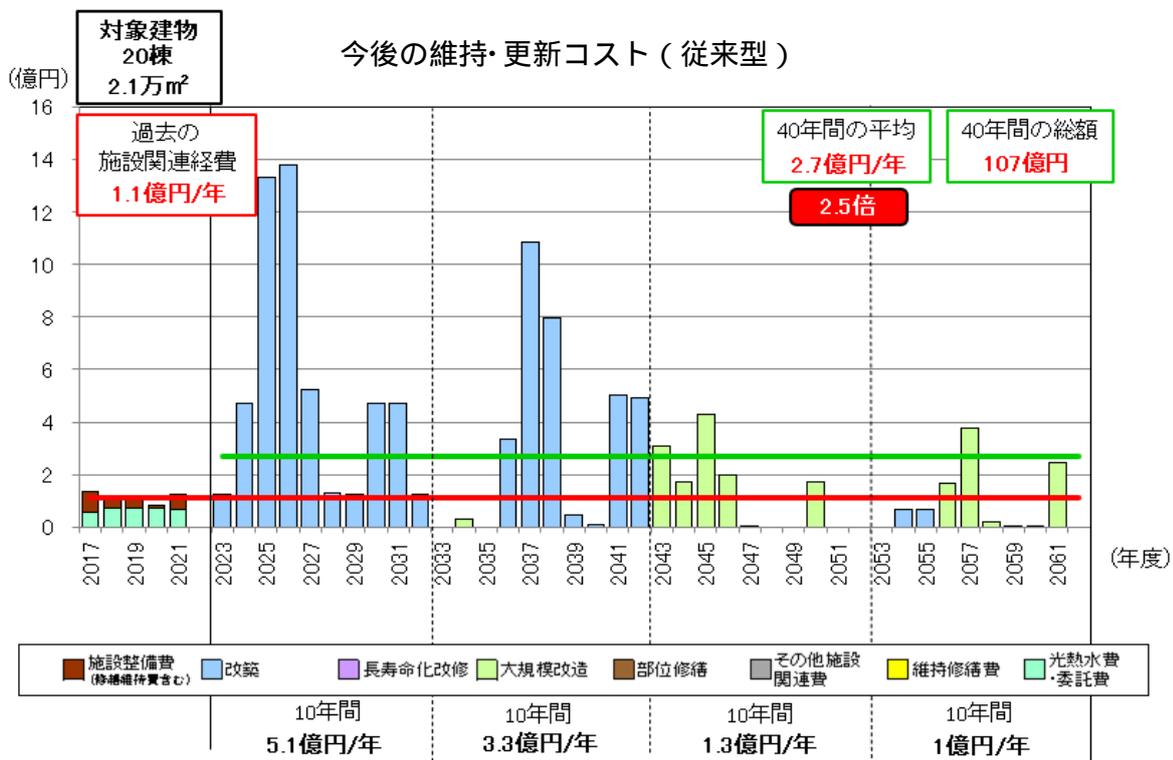
- : 長寿命化改修
- : 部位修繕
- : 改築
- : 大規模改造
- : その他（機能向上）

令和4年3月16日発生福島県沖地震における被害状況を確認・検証した上で、事業期間を設定しています。

【 2 . 長寿命化によるコスト試算の比較と検証】

長寿命化対策を講ずることなく、従来通り耐用年数40年が経過した時点で改築（建替え）を行うと仮定した場合、40年間の維持・改築コストの総額は、約107億円となり、1年あたりの維持・更新コストの年平均額は約2.7億円となります。従来の改築（建替え）中心の整備方法を継続した場合、過去5年間の施設関連経費の年平均額の約2.5倍のコストが必要となることが予想されます。

従来型の整備方法を継続することは、将来必要となる改築費や大規模改造費を考慮すると財政的な面から困難です。そのため、計画的な維持管理による社会教育施設の長寿命化が必要です。



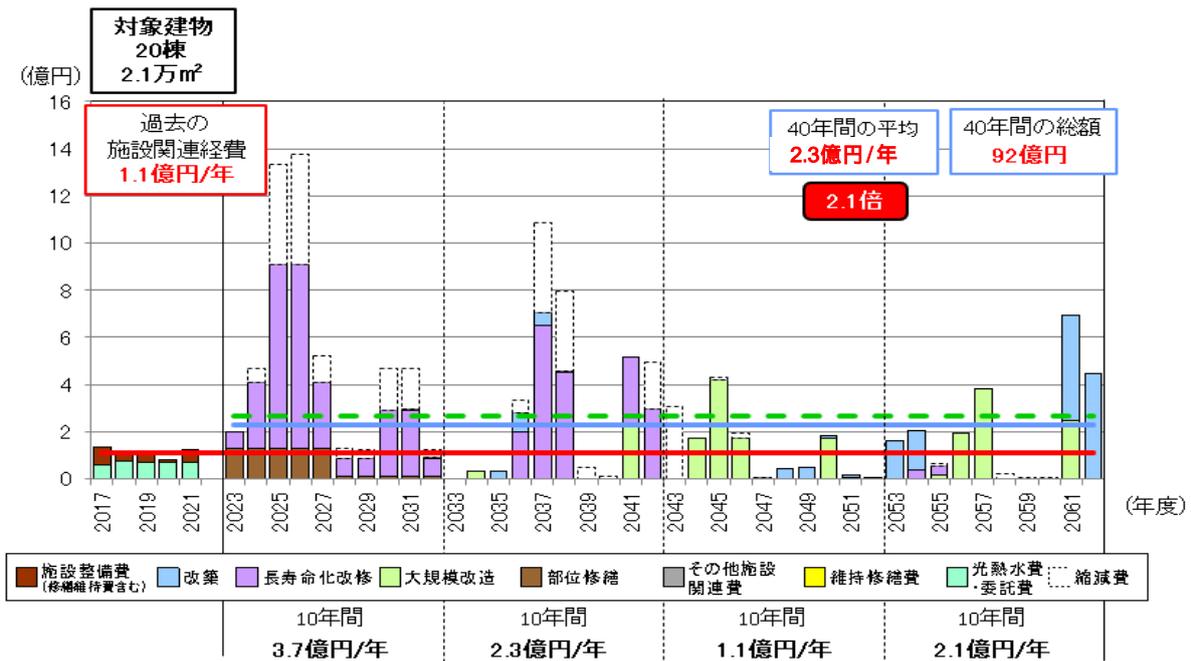
出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年 文部科学省）

- 注
- ・赤色実線...過去の維持・更新コスト（5年間）の1年あたりの平均額
 - ・緑色実線...今後の維持・更新コスト（40年間）の1年あたりの平均額
 - ・過去の施設関連経費は2018～2022年度の5年間で算出しており、2023年度の上記シミュレーションに含めていない。

社会教育施設の長寿命化対策を講じ、目標耐用年数を80年とした場合の40年間の維持・更新コストの総額は、約92億円となります。従来型の40年間の維持・更新コストの総額は約107億円であり、長寿命化型(平準化・コスト縮減)への転換により約15億円が縮減できます。

維持・更新コストの年平均額で比較すると、長寿命化型(平準化・コスト縮減)の年平均額が約2.3億円であるのに対し、従来型は約2.7億円となることから、1年あたり約0.4億円の縮減となります。

今後の維持・更新コスト（長寿命化型：平準化・コスト縮減）



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年 文部科学省）

- 注
- ・ 赤色実線...過去の維持・更新コスト（5年間）の1年あたりの平均額
 - ・ 青色実線...長寿命化型（平準化・コスト縮減）における今後の維持・更新コスト（40年間）の1年あたりの平均額
 - ・ 緑色実線...今後の維持・更新コスト（40年間）の1年あたりの平均額
 - ・ 過去の施設関連経費は2018～2022年度の5年間で算出しており2023年度の上記シミュレーションに含めていません。